

第1学年1組 図画工作科学習指導案

平成25年9月18日(水) 第5時 於運動場 指導者 高沢 美砂子

1 題材 すなばであそぼう

2 目標

- 砂や土、自然物などで遊ぶことに関心をもつことができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 砂や土の色、質感などの特徴に気づき、生かし方を思いつくことができる。(発想や構想の能力)
- 体全体を使い、自分の考えたことをもとに工夫して活動することができる。(創造的な技能)
- 砂や土に親しむとともに、自分の活動を紹介し、友達のよさを認めることができる。(鑑賞の能力)
- 友達と協力して砂場遊びをし、お互いの表現のよさをみとめ合うことができる。(自己有用感)

3 子どもと教材

本学級の子どもたちは落ち着いた生活態度で学習意欲が高く、活動的な子が多い。休み時間になるとほとんど全員の子が教室から出て校庭で遊ぶ。なかでも児童Bは、始業前から校庭の側溝などにいるザリガニを捕まえたり、ピオトープの生きものとふれ合ったりして、朝から全身ずぶ濡れで教室に戻ってくることもあった。そのような児童Bが、ある日の日記に「びおとうぶでうんこをつくってあそびました。みんなもつくってみてね。」と書いた。ピオトープの土で作ったのだろう。生きもの以外に、土や泥などで何かをつくって遊ぶ楽しさを発見したことがうかがえた。児童Cや児童Dは、休み時間に油粘土で遊んでいいと伝えると「やったあ。」と喜んで次々にいろんなものを作って楽しんでた。一方、児童Aは図工の授業で油粘土を使って遊んだときに「わたし、粘土嫌い。保育園の粘土なんかもつと嫌。だって土の粘土だからすごく汚れたもん。」と話していた。児童Aの他にも、同様に、砂や土、粘土で遊ぶことに対して抵抗感を示す子どももいる。これは、それまでに砂場などで砂遊びや泥遊びを十分行う経験が不足しているからだと考える。そこで、こうした子どもたちに、汚れることなど苦にならないほど夢中になって砂や土を使って遊ぶ経験をさせたいと考えた。そして、そうした経験を通して五感を使って素材にふれることの楽しさを感じ、造形遊びの楽しさを感じてほしいと願った。

図画工作の学習では、五感を働かせて材料の手触りや色などを楽しみ、試行錯誤しながらものを作り出していく過程そのものの楽しさを体験させ、創意工夫することの好きな子どもたちを育てていくことが求められる。本題材は、砂場を中心とした場所で、砂、土、泥や周囲の自然物を素材としてさまざまなものをつくりだす造形遊びの学習である。五感を使って存分に素材にふれ、全身を使って造形遊びをさせることで、素材のよさや特性に気づいていけるようにする。バケツや鍋、洗面器など、大振りな道具を用意することで、体全体を使ってダイナミックな活動ができるようにしていきたい。また、造形遊びをするなかで、素材のよさに気づいたり、造形活動の工夫が見られたりしたときに、話し合いの場を設けることで、友達とかかわりながら、素材の見方や考え方、感じ方を広げたり、新たな遊びや表現の工夫ができるようにする。素材に存分にふれさせてから表現主題を提示することで、素材の特性を生かした構想やイメージを膨らませることができるようにし、創る喜びを味わわせたい。

本時の学習では、造形遊びの中で培ってきた素材の見方や表現の工夫について振り返る。そこで「砂場王国をつくろう」と表現主題を与えることで、造形遊びで身につけた力を使ってどんな活動が、どんな方法でできるかを子どもに話し合わせる。話し合いの中で、子どもは本時の活動に見通しをもつことができるであろう。そして活動するなかで、水を含ませたときの感触や固まり具合に気づく子や、木の葉や枝、石なども取り入れてつくる子もいるであろう。こうした気づきや活動は大いに称賛し、他の子どもに広げていきたい。このように、活動のなかでも表現方法などについて話し合いの場を設けることで、友達と協力し、お互いの造形活動のよさを認めながら活動していこうとする姿を引きだしたい。そして創る喜びを味わうことができるようにしていきたい。

5 本時の学習活動

(1) 目標

砂や土の色や質感などの特徴を生かす工夫をして「砂場王国」を制作し、互いの良さに気づくことができる。

(2) 準備

教師・・・バケツ、洗面器、鍋、ボウル、箱、篩い、たけみ、ちりとり、ホース、粘土ペラ

児童・・・汚れてもいい服装

(3) 展開

学 習 活 動	○指導上の留意点 ※評価
<p>1 前時までの学習活動を振り返る。(7分)</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">砂場遊びのプロになってきたね。砂や土でどんなことができるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バケツにぎゅうぎゅう土を詰め込んでひっくり返すと、大きいケーキができるよ。 ・大きい山ができるよ。友達と一緒にだと簡単。 ・山をしめらせてかちかちにするとトンネルが上手に掘れるよ。 ・水を流して大きな川ができるよ。だんだん深く掘るといいよ。最後は海になるよ。 ・友達のつくったのとつなげると、町みたいだよ。 	<p>○土や砂の特徴を生かしたさまざまな活動ができるように、前時までにつくったものや、そのつくり方を発表させ、子ども同士の交流を促す。</p> <p>※砂や土を使ってできるようになったことを振り返って確認することができたか。(発言・つぶやき)</p>
<p>2 本時の学習課題を確認する。(1分)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">砂や土でこんなにできるよ！みんなでつくろう砂場王国</p>
<p>3 砂や土でつくりたいものをつくる。(32分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バケツに湿った土を詰め込んでひっくり返して、お城をつくるよ。家や車も削ってつくれるかな。 ・水が流れる道をつくって迷路みたいな川にするよ。葉っぱの船を流そう。 ・川から流れた水をためる穴を掘って海にしよう。葉っぱの船が流れてくるかな。 ・色の違う土をかけると、模様や絵が描けるんだね。それならかわいいケーキをつくろうかな。並べてケーキ屋さんにして。 ・大きい山に十字のトンネルを掘るよ。山を湿らせながらつくったから、掘っても崩れにくいよ。 	<p>○見通しをもって制作活動ができるように、活動中の子どもに作り方を尋ね、他の子どもにも伝えるようにする。</p> <p>○つくりたいものがうまくできずに困っている子には、解決法を友だちに相談するよう促す。</p> <p>○活動が広がっていかない場合は、教師がそれまでにない技法をやってみせ、紹介する。</p> <p>※砂や土の、色や質感などの特徴に気づき、それらの生かし方を思いついたか。(発言・活動のようす)</p> <p>※砂や土に親しむとともに、自分の活動を紹介し、友だちのよさを認めることができたか(発言・活動のようす)</p>
<p>4 制作活動の振り返りをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい砂場王国ができた。壊すのがもったいないくらい。 	

(4) 評価

砂や土を積み上げたり削ったり、色の違いを生かしたりして、工夫して造形活動に取り組み、互いの表現の良さに気づくことができたか。

○本時の視点

砂場の砂や校庭の土を素材に造形遊びの活動を積み重ねてきたことを振り返らせ、主題を与えたことは、砂や土を使った多様な表現を引き出すのに有効であったか。